



第6回キンボールスポーツワールドカップ2011大会レポート

NANTES'11
COUPE DU MONDE SPORT KIN-BALL

- 派遣期間：2011年10月23日(日)～10月31日(月)
- 大会期間：2011年10月25日(火)～10月29日(土)
- 開催場所：フランス・ナント市
- 部門：男子の部、女子の部
- 参加国：男子8カ国、女子7カ国
- 結果：

順位	男子	女子
優勝	カナダ	カナダ
準優勝	日本	日本
3位	フランス	スイス
4位	ベルギー	フランス
5位	スペイン	ベルギー
6位	デンマーク	スペイン
7位	スイス	デンマーク
8位	ドイツ	



本来ならば第6回キンボールスポーツワールドカップ2011は兵庫県宝塚市で開催される予定でしたが、東日本大震災による放射能漏れの影響で中止となりました。その後、国際キンボールスポーツ連盟会議で急遽フランス・ナント市にて開催することが決定しました。



今回は1年前に各チームのヘッドコーチを決め、ヘッドコーチを中心とした選考委員が、まず2010年の第11回キンボールスポーツジャパンオープン・チャンピオンズカップで候補選手を選出し、練習会や合宿などを行いました。そして、2011年7月に開催された第12回チャンピオンズカップにおいて各チーム12名の代表選手を選出し、ワールドカップに派遣しました。

1年以上ヘッドコーチのもと練習を積んできたチームであったため、今まで以上にいろいろな攻撃パターンをもったチームを作ることができました。



第6回大会にあたる今大会、日本は男子の部、女子の部の選手各12名計24名、松井外喜子団長、黒川道子副団長、賀数岳海男子ヘッドコーチ、入江信行女子ヘッドコーチほかスタッフ14名、合わせて38名の選手団で参加しました。

今大会は、デンマーク女子チームがワールドカップ初参加となり、2011年に国際連盟に加盟したチェコ共和国の代表が視察に訪れていました。また、レフリーはカナダから2名、フランスから1名、日本から2名の計5名での担当となりました。

今大会の運営の特徴として、華美なものは少なく、必要なものを必要なだけ用意をし、無駄をださない。ただし、お金をかけるべきところにはきっちりかける。といった実質本位の大会運営でした。

また、過去の大会において問題のあったこともある食事面においても、不満の声は少なく、さすが世界に名だたる美食の国フランスでした。



もう 1 点見習うべき点は、大会の盛り上げのため、プレーヤーのモチベーション、キンボールスポーツの普及も考え、地域社会、学校等に働きかけ、多くの観戦者が来場したことです。毎日立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。観戦者が多いと、見知らぬ地でも、それだけで受け入れられた感じがして過しやすかったです。

大会は 10 月 24 日にオープニングセレモニーが開催され、25 日～28 日に予選、29 日に決勝戦が行われました。試合は 7 分 1 ペリオドの 3 ペリオド先取制で予選 3 試合を行い、上位 2 チームが決勝へ。3 位～5 位が準決勝を行い、勝者 1 チームが決勝に進むという方式でした。

女子チームは予選を 2 位で通過し決勝へ。男子チームはフランスとまったくの同率 2 位であったため急遽 2 位決定戦を行い、大差でフランスに勝ち、決勝進出を決めました。女子チームの 3 位～5 位の準決勝はフランス、ベルギー、スイスで行われました。これまでの実績から地元フランスが 3 位になり決勝戦に進むのではという大方の予想でしたが、新興国スイスが勝者となり決勝進出が決定。その日、スイスチームは女子チームだけでなく男子チームや関係者も含めて夜通しパーティーでした。



女子決勝戦。日本チームは予選ではカナダから 1 ペリオドを奪ったものの、決勝戦ではカナダが連続 3 ペリオドを取り、優勝。どのペリオドもカナダと 2 ポイント以上の差がつき、力の差を見せつけられました。スイスとの準優勝決定のための延長戦は予想外の苦戦。最後にからくも逆転することができ、準優勝を勝ち取ることができました。

最後に行われた試合が男子決勝戦。敗れはしたものの、王者カナダから 2 ペリオドを奪っての準優勝は今後の励みになる価値のあるものです。第 1 ペリオドを日本が取り、第 2、第 3 ペリオドはカナダが、第 4 ペリオドは再度日本が取るというシーソーゲーム。カナダ、日本の応援団だけでなく観客を魅了する手に汗握る試合展開でした。第 5 ペリオドも終盤まで 3 チームで競い、ペリオド終了直前、カナダが得点を取って試合終了。結果的にはペリオドがとれなかった地元フランスですが、大健闘を見せた結果、引き締まった好ゲームとなりました。

連続 6 回の優勝を誇るカナダチームですが、時代は変えることができると感じさせた大会でした。日本チームのとった戦術は、カナダチームのディフェンダーにボールの近くで守らせないようにするために素早く何回も移動し、そこにできた隙をついてヒットするというものでした。ディフェンダーがボールに近くに位置すると日本チームの移動に合わせて移動しなければならず、動きが少しでも遅れると妨害したという理由で反則がとられます。そのためカナダチームのディフェンダーはボールの近くで守ることが難しくなったようです。

チェコ共和国から視察にきた代表のマーティン氏は、日本チームの素早く何度も移動するプレーに驚きと感動をおぼえ、自分は日本チームのファンであるとも大会から数カ月たった今でも公言しています。世界の人に驚きを与えたプレーは、体格で劣る日本人としていかに勝負していくかの今後の見本となりました。

今大会もご支援、ご協力も数多くいただきました。第 4 回、第 5 回大会に引き続き、日本国内の皆さまから多数の寄付金もいただきました。皆さまのご支援、ご協力に連盟関係者一同感謝しております。本当にありがとうございました。

2013 年の次回ワールドカップの開催地はまだ決定しておりませんが、日本は次回大会に向けて新たなスタートを切ります。今後ともご支援、ご協力の程よろしく願いいたします。

★日本キンボールスポーツ連盟ホームページより各種写真、決勝戦のフル動画がご覧いただけます。
日本キンボールスポーツ連盟ホームページ
<http://www.newsports-21.com/Kin-ball/>
トップページ⇒レポート⇒2011 よいどうぞ。
日本版とフランス版があります。

